

「災害で活躍! アルミ缶コンロ (2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

完成した「アルミ缶コンロ」に、エタノールを入れて、さっそく点火してみた。アルコールの量は任意だが、量と火力は関係はない。量が多いと燃焼時間が長くなるということだ。



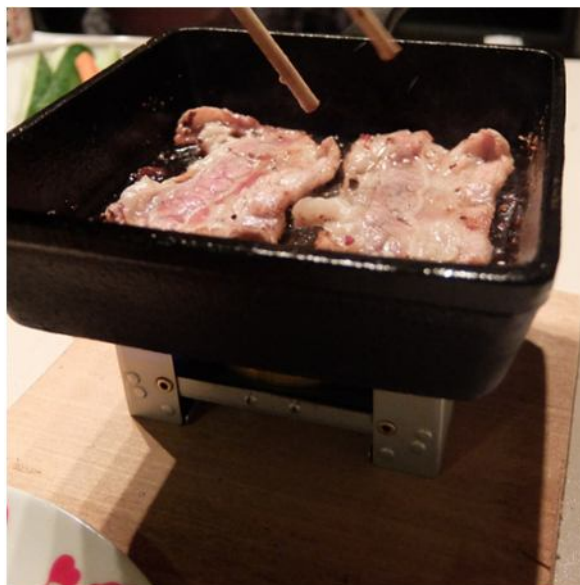
点火して1分ぐらい経つと、周囲の孔から、かわいらしい「炎の赤ちゃん」が出てくる。



更に1分ほど経つと、孔から出てくる炎が少しずつ大きくなる。しかし、まだ中央の炎のほうが大きい。



数分後、炎が絶好調になる。気化室から出てきたアルコール蒸気が勢いよく燃焼し、中央の火柱よりも高くなった。携帯用の五徳を置いて、上部に手をかざしてみると、直焚きの炎とは明らかにちがう、熱気を感じた。これなら、間違いなく調理に使えるようだ。



さっそく、小さなフライパン(卵焼き用)を置いて、焼き肉を試してみた。見事にジュージュウ音がして、あっという間に調理が完了した。

このコンロはエタノール(エチルアルコール)でも使用可能だ。エタノールは C_2H_5OH と炭素数が2なので、より火力が強い。エタノールは消毒用にも使われるので、救急箱にも入っている。理科実験のできない災害現場でもアルミ缶さえあれば、学習しながら実用的なアルコールコンロを作ることができる。さまざまな場面で活躍しそうだ。